

需要拡大に応える生産基盤を整備

シードは今後のさらなる製造開発体制の整備、市場競争力向上のため、2026年1月に、シード鴻巣研究所内に4号棟を竣工しました。

今回新設した4号棟は、省人化と生産能力増強を同時に実現させるためにAIを導入した生産ラインの構築を進めており、第1期計画では、最大生産能力が月産6,500万

枚から7,900万枚となる計画です。第2期計画での最大生産能力は、月産8,250万枚となる見込みであり、今後の需要拡大に対応可能な供給体制を引き続き確保していきます。また、国内外の需要動向を見極めながら、さらなる供給能力向上に向けた施策についても柔軟かつ機動的に推進していきます。

AIによる自動化運転でさらなる生産力の向上



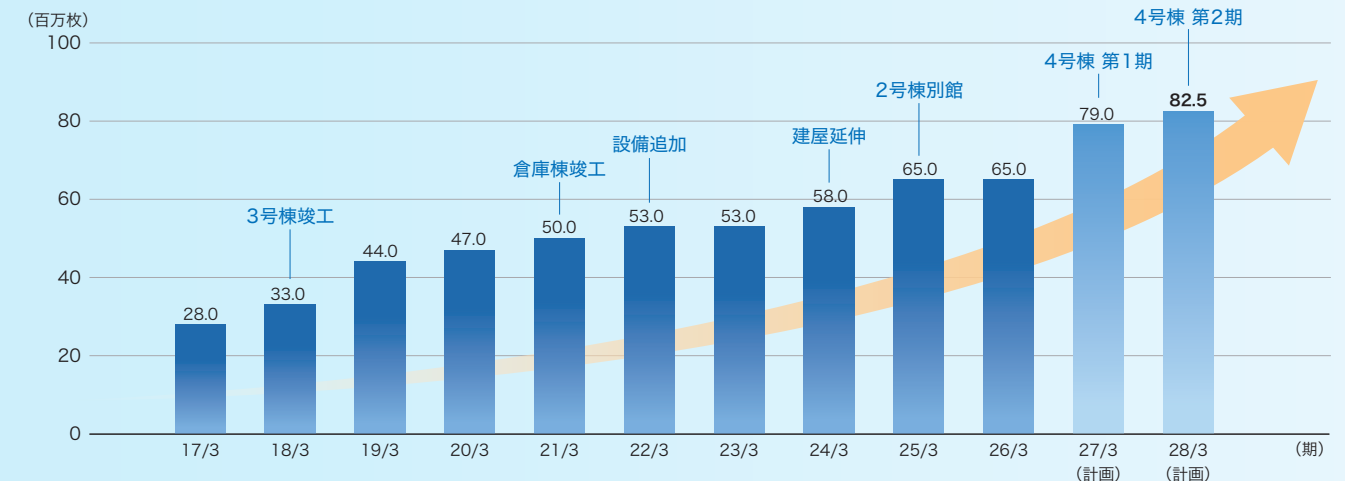
鴻巣研究所では、高品質製品の生産過程における安定性と効率性を確保するために、検査システムのオートメーション化を進めています。これにより、検査結果のばらつきを抑えることを可能にしています。2027年3月期までに実施する鴻巣研究所の設備投資には、生産棟の増設だけでなく、省人化生産体制を構築・導入する設備への投資も含まれています。工場は設計段階から省人化を想定し、AI技術による製造・検査工程の自動化運転の導入を行います。加えて、最新の生産ラインの省人化ノウハウを既存ラインにも横展開していくとともに、工場内物流の自動化も進め、さらなる高効率化と生産性の向上を目指します。

年間生産能力 最大“9.9億枚”体制へ

鴻巣研究所では、主力である1日使い捨てコンタクトレンズの安定生産と、海外向け仕様の製品をはじめとした小ロットの品種を効率的に生産する多品種少量生産体制を整備しています。



コンタクトレンズ月間生産能力推移



VOICE

成長を支える生産基盤と人財基盤の強化

取締役常務執行役員 生産技術本部長
福田 猛



シード鴻巣研究所は、国内外でのコンタクトレンズの需要拡大への対応を背景として、安定した製品供給と今後の成長戦略を実現するため、設備更新やライン新規増設を行ってまいりました。

今回の4号棟稼働による生産力の抜本的引き上げに取り組んでおり、国内外の需要の拡大に応えてまいります。

また今回、4号棟には新たに、福利厚生エリアを新設しました。食堂スペースと休憩スペースをそれぞれ1フロアずつ設け、吹き抜けの階段で行き来でき、従業員が心からリラックスできるよう、快適な空間づく

りにこだわりました。空間デザインにあたっては、従業員アンケートを実施し、その結果を反映したナチュラルな木質感やグリーンを取り入れ、心地よい雰囲気を演出しています。

これらの取り組みを通じて、従業員一人ひとりがいきいきと働くことができる職場環境の整備を進めるとともに、従業員エンゲージメントの向上や働きがいの創出につなげていきます。また、製造現場を支える多様な人財に選ばれる魅力的な職場づくりを推進し、将来的な事業成長を支える人財の確保・定着と次世代の育成に取り組んでまいります。



開放感を意識して設計した1階事務所



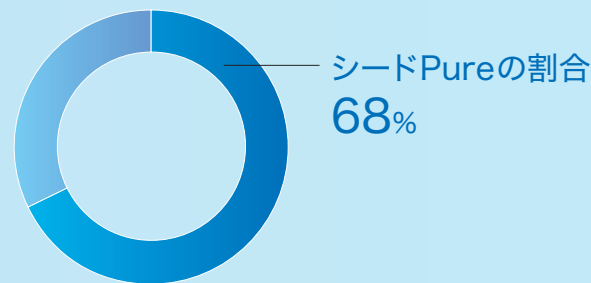
社員がゆっくりと休める休憩スペース

使い捨てコンタクトレンズ市場におけるシードPure

シードPureは、発売から10年以上が経過したロングセラーブランドです。コンタクトレンズ市場ではシリコーンハイドロゲル素材への移行が進んでいますが、シードPureは従来のHEMA素材を採用しながらも、日常使用において十分な性能を備えています。また、長年にわたる安定した製造実績と高い品質への評価に支えられ、多くのお客さまにご愛用いただいています。当社は、HEMA素材市場

におけるシードPureのプレゼンスをさらに高め、圧倒的No.1ブランドを目指した取り組みを推進しています。今後も、お客さま視点に立った製品価値の訴求とブランド認知度の向上を図るとともに、品質、経済性、豊富なラインアップといった強みを活かし、市場における競争力のさらなる強化を目指していきます。

売上高構成比



シードPureのリブランディング

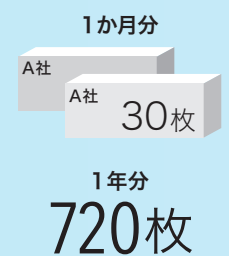
シードPureの価値向上に向け、当社はブランドの再訴求を進めています。シードPureは発売以来、多くのお客さまに支持されてきたロングセラーブランドであり、日常使いのコンタクトレンズとして確かな実績を築いてきました。

その取り組みの一つが、1箱32枚入りという独自の価値提案です。これにより、経済性と利便性の向上につながります。当社では、このメリットをより多くのお客さまに実感いただけるよう積極的な訴求を行っています。

また、品質面では、製造から検査までを国内で一貫して行う「Made in Nippon」のコンタクトレンズとして、徹底した品質管理体制と厳格な検査体制を確立しています。長年にわたり安定した品質を維持してきた実績を発信しています。

さらに、製品ラインアップの充実もシードPureの大きな特長です。「1dayPure うるおいプラス」をはじめ、乱視用、遠近両用の「マルチステージ」、スマートフォン利用者の見え方をサポートする「View Support」、拡張焦点深度設計を採用した「EDOF」等、多様な視力矯正ニーズに対応する製品を展開しています。今後も幅広いラインアップの強みを訴求し、お客さま一人ひとりに最適な視生活の提供を目指していきます。

一般的な
1dayコンタクトレンズ



シードPureの
1dayコンタクトレンズ



1年で
48枚
お得

※ 両眼で使用した場合

特集 シードPureを、 もっと多くの人へ リブランディングによる進化

お客さまの多様なニーズに応えるため、近視・遠視用だけでなく、乱視用、遠近両用、スマートフォン利用者向けレンズ等幅広い製品ラインアップを展開しています。今後は各製品の 特長と価値の訴求を強化し、さらなる認知拡大と利用促進を図ります。

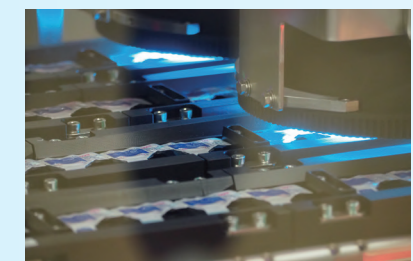
シードPureの強み

製品の品質を確保するため、徹底した品質管理を行うとともに全品検査体制を整えています。また、2次元コードとIDタグによる一元的な生産・流通管理を行い、すべてのレンズの追跡調査を可能にしています。

シードPureのレンズ素材は、水分を引き寄せてとどめる力が強い両性イオン素材「SIB」※を採用しています。さらに、レンズ保存液には天然保湿成分の「アルギン酸」をプラス。「アルギン酸」は、コンブやワカメ等の海藻類

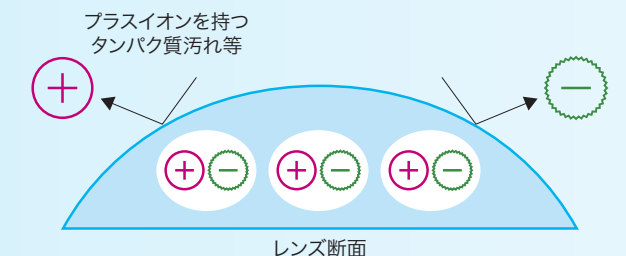
から抽出される天然保湿成分です。瞳の中の水分を引き寄せ、さらにレンズ表面に涙を滞留させる働きがあります。たっぷりうるおう、ずっとうるおう、こだわりの保水力を実現しました。また、プラスとマイナスのイオンをあわせ持つ両性イオン素材「SIB」により、うるおいを保ちながらも、汚れを寄せつけません。さらに、通常のイオン性高含水レンズに比べ、水分を引き寄せる力が強く、水分蒸発が抑えられると考えられます。

※ 人体の基本構成物質であるタンパク質の構造に似せた、生体適合性に優れたシード独自の素材です。「SIB」はSEED Ionic Bondの略です。



レンズの全品検査体制で高品質な製品を展開

汚れにくさのイメージ図



プラスとマイナスのイオンをあわせ持つ両性イオン素材「SIB」により、うるおいを保ちながらも汚れにくい設計に

VOICE

高品質・快適なシードPureを
多くの人に届けたい

執行役員 アイケア営業部 統括部長 菅野 勝太



「国産」の使い捨てソフトコンタクトレンズであるシードPureは、近視・遠視・乱視・遠近両用に対応し、1day・2weekのフルラインアップを展開しています。「Made in Nippon」による高品質と安心感に加え、多様な視力矯正ニーズに応える製品群を強みと

して、多くのお客さまにご愛用いただいています。営業部では、「国産」と「1dayタイプ32枚入り」という差別化された価値を積極的に発信するとともに、お客さまに最適な製品提案を通じて、ブランド認知の向上と市場シェアの拡大を目指してまいります。

特集

次世代の「みえる」を育む 子どもの近視とスポーツ支援

子どもの近視増加を重要な社会課題と認識し、「SEEDこどものめ未来プロジェクト」を立ち上げました。教育・啓発活動や体験型イベントを通じて、子どもたちの目の健康を守り、未来の成長を支える取り組みを継続的に推進しています。



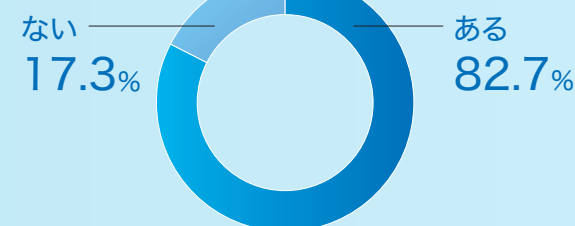
子どもの近視が世界的に増加中

近年、子どもの近視が増加しており、長時間のスマートフォンやゲーム機の使用、野外活動時間の不足等、生活環境の変化が大きく関わっていると言われています。

2025年度に行った文部科学省の学校保健統計調査では、裸眼視力1.0未満※の割合が、小学校約4割、中学校約6割、高等学校約7割にのぼります。これは、35年前と比べると約2割ほど増加していることになります。当社は、この問題を社会課題解決の要請として捉え、プロジェクトを立ち上げる等、解決に向け取り組みを始めています。

※ 文部科学省 2025年度学校保健統計調査

小児の目の疾患・症状



調査名：子どもの目に関する調査
調査目的：子どもの目の健康に関する実態を把握する、目の健康に関する医師の認識を把握する
調査対象：18歳未満の子どもを育てる保護者 600名、眼科を標榜している目の疾患・矯正等を専門領域とする医師 220名

「SEEDこどものめ未来プロジェクト」スタート

2026年1月からの取り組みとして、保護者の方々と、眼科医や専門家、企業がひとつのチームとなって子どもの目を守り、健やかな成長を支えていくための情報発信や啓発活動を行う「SEEDこどものめ未来プロジェクト」を開始いたしました。

「目」を守ることは、未来の「芽」を育てること。本プロジェクトは、子ども一人ひとりの未来を見守り、その成長を支えていくことをコンセプトとしています。

本プロジェクトの一環として公開したウェブサイトで

は、子どもの目に関する情報や代表的な症状、保護者が日常生活の中で目の不調に気づくための「子どもの目SOSサインチェック」などを掲載しています。

SEED こどものめ未来プロジェクト：https://www.seed.co.jp/children/



スポーツを通して学ぶ「目の健康」イベントを開催

シードはこれまで多くの子ども向けイベントを通じて啓発活動を行ってきました。こうした取り組みをさらに発展させ、2026年6月には小学生とその保護者を対象とした当社初の近視啓発イベントを開催しました。眼科医による講演や、眼科医とコンタクトレンズを装着してプレーするラグビー選手によるトークセッションのほか、ラグビー体験教室や視力検査体験等、親子で楽しみながら学べる参加型プログラムを実施。近視予防の大切さや目の健康について理解を深めていただく機会となりました。

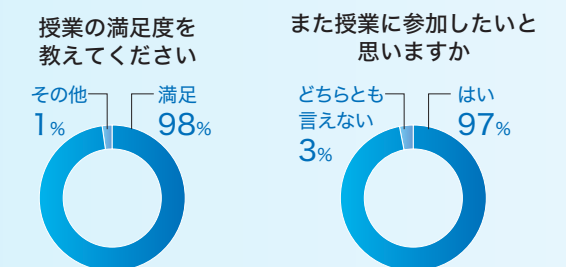


近視予防に関する出前授業

当社は、次世代教育への貢献を目的に、理科実験教室の開催や自宅で楽しめる理科実験コンテンツの配信等、子どもたちの学びを支援する活動を継続的に展開してきました。さらに2023年からは教育機関向けの出前授業を開始し、これまでに8,000人を超える子どもたちに対して、目の健康の大切さやSDGsに関する授業を実施しています。



2025年3月期に実施した事後アンケートでは、満足度98%と高い評価をいただきました。若いうちから目の健康への意識を育み、将来にわたって健やかな生活を送れるよう、一人ひとりに寄り添った分かりやすい学びの機会の提供に努めています。



VOICE

コンタクトレンズ市場でのプレゼンス発揮に向けて

マーケティング戦略部 課長



「SEEDこどものめ未来プロジェクト」は、様々な部門のメンバーが参画し、子どもたちの目の健康を守ることを目的として立ち上げたプロジェクトであり、当社が果たすべき役割や社会的意義を改めて見つめ直すことから活動を開始しました。

また、子どもを持つ保護者との対話を重ねるなかで、「みんながチームとなって取り組む」というプロジェクトの核となるコンセプトを策定しました。子どもたちの目の健康は、本人だけでなく、保護者や教育関係

者、地域社会等、多様なステークホルダーが連携して支えていくことが重要であると考えています。

当社は、大切な子どもたちの今と未来に寄り添い続けながら、目の健康を支えることを使命と捉えています。また、子どもたちが主体的かつ前向きに目を守る行動につながられるよう、学びの中に「遊び心」を取り入れることも大切にしています。楽しみながら自然に目の健康への理解を深められる機会を創出し、未来の「みえる」を守る活動を推進してまいります。